

令和元年度 二次圏域における地域・職域連携推進事業実施状況

		連携会議	地域・職域連携推進事業
1	有明保健所	◆担当者会議 3/6予定だったが、新型コロナウイルス感染症の県内発生に伴い開催中止	
2	山鹿保健所	◆連携会議 1/30 ・働く世代の健康づくりに関する現状と課題の共有 ・事業所の健康経営事例の紹介	◆情報共有 健康経営事例の紹介
3	菊池保健所	◆連携会議 2/7 ・地域の健康課題の共有 ・情報共有及び意見交換	◆地域の健康課題の共有 地域・職域における働き盛り世代の健康づくりの取組 地域・職域の協働での取組について検討
4	阿蘇保健所	◆連携会議 3/10予定だったが新型コロナウイルス感染症の県内発生に伴い中止	◆スマートライフプロジェクトの啓発
5	御船保健所	◆連携会議 2/19 ・働く世代の健康課題と取組みの現状について共有、意見交換	◆スマートライフプロジェクト応援団登録企業・団体への健康教育の実施 ◆管内事業所等への健康づくり普及啓発活動
6	宇城保健所	◆連携会議・研修会 1/30 ・受動喫煙防止対策研修会 ・働く世代の健康課題、地域・職域連携推進ガイドライン、意見交換	◆受動喫煙防止対策研修 ◆働く世代の健康課題の共有、意見交換
7	八代保健所	◆連携会議開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の県内発生に伴い開催延期	◆「八代版働く人の健康川柳」の募集 ◆受動喫煙防止対策研修会 ◆事業所、企業等への出前講座の実施(2企業) ◆事業所、企業等への健康づくり関係情報の積極的提供
8	水俣保健所	◆連携会議 新型コロナウイルス感染症の県内発生に伴い、資料回付にて実施 ・健康づくりマイレージモデル事業の協議	◆健康づくりマイレージモデル事業の実施 水俣市をモデルに健康づくりに関連する項目を参るに換算し、参加登録のもと、個人の取組に応じマイルを加算、登録機関内のマイルを競い、健康づくりの取組を支援する。
9	人吉保健所	◆連携会議 3/19予定 ・従業員に向けた健康づくり実施企業表彰式 ・地域の健康課題の共有、働き盛り世代への職場の健康づくりの取組共有、連携した取組の協議	◆関係機関・団体の連絡先窓口の一覧表更新 ◆糖尿病フォーラムでの普及啓発 ◆くまもとスマートライフプロジェクト(健康経営)の普及啓発(商工会等へ啓発) ◆管内企業と連携した健康づくり取組支援
10	天草保健所	◆連携会議兼健康食生活・食育推進検討会 12/4 ・健康課題共有と各機関の取組みの情報交換 ・受動喫煙防止対策の情報提供 ・今後の取組み協議	◆働き盛り世代に向けた今後の取組と連携先について意見交換

最重要施策

糖尿病対策について

(令和元年度の取組み)

1 糖尿病の発症予防・早期発見の取組みの推進

①糖尿病予防の県民運動を展開

糖尿病予防の県民運動のキャッチコピー「見直そう食生活 はじめようウォーキング」と併せ具体的な3つのアクション「年に1度健診受診」「毎日あと野菜一皿」「毎日あと1,000歩」の普及啓発を行った。

・周知啓発のために関係機関やスマートライフプロジェクト応援団等にポスター、チラシの配付（ポスター：158約枚、チラシ：2,500枚配布）また、包括連携協定企業と連携した啓発を実施。（県内103店舗にてポスター掲示）

・運動習慣の定着を推進するため「スマートライフアプリ歩いて健康キャンペーン」をR2.1.5～2.1まで実施。参加数：13,146人、参加団体数：82団体

【参考】アプリ登録者14,855人（R2.1月末現在） R1年度増加数7,859件。

また、R1.10.5開催の健康づくりフォーラムにおいて「100まで元気！メタボ・ロコモ予防のための運動」と題した講演及び健康づくりの新たなツールとして創作した「くまもと筋肉貯金体操」を披露した（参加者285人）。また「くまもと筋肉貯金体操」の動画をYoutubeで発信し、普及に取り組んだ。

②熊本県健康づくり応援店事業の一環として、熊大病院代謝内科、熊本県栄養士会、熊本県、飲食店が連携し「ブルーサークルメニュー」を開発、提供及び啓発

ブルーサークルメニュー登録店舗数167店舗、113メニュー（令和2年2月6日現在）うち、令和元年度（2019年度）新規登録店舗数3店舗

③特定健診受診率向上を図るために、糖尿病を発症した患者の事例を示す「糖尿病患者事例リーフレット」を作成し、特定健診受診勧奨の教材として活用できるよう45市町村へ配付。

2 糖尿病重症化予防の推進

①出前講座として「糖尿病療養指導士研修会」に出向き、熊本県糖尿病性腎症重症化予防プログラム（以下プログラム）の普及を行った。（参加者：150名）

③糖尿病対策の医科・歯科連携体制の充実強化のため、ヘル歯一元気8020支援事業の実施。研修会2回、検討会1回（熊本県歯科医師会に委託）

3 熊本型糖尿病保健医療連携体制整備の強化

①二次保健医療圏毎に連携体制を整備するために、保健所が中心となり保健医療関係者連絡会議等を開催。各圏域、熊本県糖尿病対策推進会議に糖尿病専門医・腎臓専門医が配置された。

②県民や保健医療関係者への糖尿病予防に関する普及啓発を目的に、「糖尿病予防フォーラム」を3圏域で開催。

③糖尿病の発症、重症化、合併症予防のために、保健医療間をつなぐ「DM熊友パス」を活用した切れ目のないサービス提供の重要性を症例提示で学ぶ「熊本糖尿病ネットワーク研究会」を7圏域で開催。

4 糖尿病治療や療養に携わる人材の育成

①糖尿病予防対策関係者研修会の実施。参加者130名

②熊本大学医学部附属病院にコーディネーター（特任助教）を配置。コーディネーターと県が連携し以下の事業を実施。

・熊本地域糖尿病療養指導士（CDE-K）の養成（H31.4月現在：900名）

・糖尿病専門医や糖尿病療養指導士資格取得研修会、糖尿病連携医スキルアップ研修会の開催

・「軽症糖尿病、境界型の取り扱い基本指針（熊本県版）」や「DM熊友パス」の普及啓発

- ・各保健所を中心に二次保健医療圏毎に市町村や医療機関、かかりつけ医と地域中核病院等の連携ツールを活用した連携強化など保健医療連携体制を整備。

(令和2年度 of 取組み予定)

1 糖尿病の発症予防と早期発見の取組の推進

- ・ 県民運動のキャッチコピーと「年に1度健診受診」「毎日あと野菜あと一皿」「毎日あと1,000歩」の3つのアクションについて、熊本県健康づくり県民会議やスマートライフ応援団や関係機関と連携した啓発推進。また各種広報媒体により県全体へ啓発。
- ・ 県民が、適度な運動を取組むためのツールとして、「くまもとスマートライフアプリ」の活用促進や「くまもと筋肉貯金体操」などの周知啓発。
- ・ 二次保健医療圏域毎に地域の特徴に応じた糖尿病の県民運動を展開する。
- ・ 特定健診の受診率向上を図るため、国保保険者が県内の医療機関であればどこでも健診が受けることができる体制整備について関係機関との協議を継続。
- ・ 三ツ星制度を導入した「新・くまもと健康づくり応援店制度」によるブルーサークルメニューの更なる差別化と広報・宣伝の充実。
- ・ 「野菜くまもり運動（仮称）」を展開し、県民が野菜を山盛り食べる仕組みを構築。

2 糖尿病重症化予防

- ・ 熊本県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの普及の推進。熊本県糖尿病対策推進会議と連携し事業評価の検討。
- ・ 糖尿病重症化予防のための医科と歯科の連携（ヘル歯 - 元気 8020 支援事業）、市町村と医療保険者の連携、市町村、医療保険者と歯科医療機関との連携体制の強化を図る。

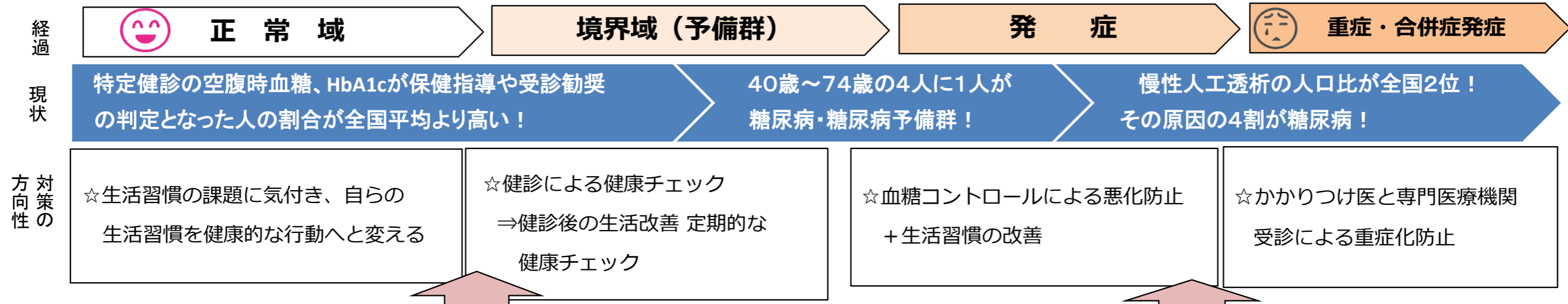
3 熊本型糖尿病保健医療連携体制の強化

- ・ 熊本県糖尿病対策推進会議、熊大病院と連携し、多機関・多職種連携による切れ目のない保健医療サービスを県民に提供する体制の整備。
- ・ 保健所を事務局とした保健医療関係機関連絡会議を開催し、地域の状況に応じた関係機関の連携体制の構築と、課題解決に向けた取り組みの実施。
- ・ 「DM熊友パス」や「軽症糖尿病、境界型の取り扱い基本指針（熊本県版）」の普及啓発
- ・ 医科・薬科連携体制、管理栄養士のいる医療機関との連携や、栄養相談を実施する市町村との連携、栄養ケアステーションとの連携等の体制の整備。
- ・ 熊本地域糖尿病療養指導士（CDE-K）の活用、連携促進。

4 糖尿病治療や療養指導に携わる人材の育成

- ・ 糖尿病予防対策関係者研修会の開催。
- ・ 糖尿病発症・重症化予防対策支援事業（旧 糖尿病医療の均てん化ネットワーク支援事業）（熊大病院へ補助）

平成30年度～令和5年度 熊本県の糖尿病対策について



糖尿病予防の健康づくり県民運動

1 糖尿病予防に関する普及啓発 ⇒ 県民1人ひとりの具体的アクションへ糖尿病予防のキャッチコピー を活用した啓発活動

キャッチコピー 「見直そう食生活 はじめようウォーキング」

- ①キャッチコピーを使って県民一丸となって生活習慣改善に取り組む気運を盛り上げる。
 - ・県民が生活習慣改善（運動、適切な食生活等）に取り組むよう正しい知識を普及し、健康意識の醸成を図る。

- ②スマートライフプロジェクト推進（具体的アクションのすすめ）
 - ・健診（年に1度の健診受診）、食事（毎日、野菜をもう一皿（100g））、運動（毎日、あと1000歩）のすすめ
 - ・スマートライフアプリ（歩数計アプリ）の普及
 - ・くまもと筋肉貯金体操の創作・普及
 - ・プロジェクト応援団の登録促進と活動促進



スマートライフ（歩数計）アプリ

2 特定健康診査・保健指導の実施（市町村、保険者） 支援

3 食環境の整備充実・強化

- ①健康づくり応援店店舗拡大
- ②ヘルシーメニュー（ブルーサークルメニュー）の開発、提供

糖尿病保健医療連携体制整備

1 熊本型糖尿病保健医療連携体制の強化

- ・二次保健医療圏域単位の保健医療関係機関連絡会議の開催（事務局：保健所）
- ・ヘル歯一元気8020支援事業
糖尿病と歯周疾患に係る医科・歯科連携体制整備
- ・熊本糖尿病地域連携パス（DM熊友パス）の活用促進 等

2 熊本県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進

3 糖尿病治療や療養指導に携わる人材の育成

- ・糖尿病対策関係者研修会の開催
- ・熊本県糖尿病対策推進会議や熊大病院と連携した人材育成支援
熊本地域糖尿病療養指導士（CDE-K）等の人材育成 等



連携

連携

熊本県健康づくり県民会議

熊本県糖尿病対策推進会議（事務局：県医師会）

【二次保健医療圏域：各保健所】

地域の現状に応じた糖尿病対策の推進（啓発・環境整備、保健医療連携体制整備）

働く世代の健康づくりについて (令和元年度の取組み)

くまもとスマートライフプロジェクトの推進 ～健康経営の推進～

「くまもとスマートライフプロジェクト」～みんなで健康寿命をのばそう!～とは
県では、平成26年7月から「第3次くまもと21ヘルスプラン（熊本県健康増進計画）」の一環として、県民の生活習慣を改善し健康寿命をのばすことを目的に「くまもとスマートライフプロジェクト～みんなで健康寿命をのばそう!～」（※。以下「プロジェクト」という。）を展開している。

※ プロジェクトでは、「健康寿命をのばすための6つのアクション」-①適度な運動、②適切な食生活、③禁煙、④健診やがん検診受診、⑤歯と口腔のケア、⑥十分な睡眠-の実践を推進。



1 くまもとスマートライフプロジェクト普及啓発

- ①ポスター、チラシなど各種広告媒体によるプロジェクトに関する広報を実施
健康経営セミナー等での配布や関係機関への配布。（チラシ約1,100枚配布）
- ②健康づくりフォーラムの開催
健康寿命をのばすために誰でもできる6つのアクションをテーマに健康づくりフォーラムを開催。6つのアクションの1つである「運動」に焦点をあて、近畿大学の谷本道哉氏の講演と同氏監修による「くまもと筋肉貯金体操」を創作し披露。体操動画をYoutube配信し啓発。
- ③糖尿病予防の県民運動の普及
糖尿病予防の県民運動のキャッチコピー「見直そう食生活 はじめようウォーキング」と併せ、予防のための3つのアクション「年に1度健診受診」「毎日あと野菜一皿」「毎日あと1,000歩」の啓発チラシを、各セミナー等のイベントやスマートライフ応援団等に配布。（ポスター：約158枚、チラシ：約2,500枚配布）また、包括連携協定企業と連携した啓発を実施。（県内103店舗にてポスター掲示）
- ④スマートライフアプリを活用した「適度な運動」の普及
歩数計アプリを活用した、個人戦、団体戦での「くまもとスマートライフ歩いて健康キャンペーン」を令和2年1月5日～令和2年2月1日の期間に実施。参加数：13,146人、参加団体数：82団体

2 働く世代に向けての健康づくり（健康経営の推進）

- ①くまもとスマートライフプロジェクト応援団（以下プロジェクト応援団）の募集
* プロジェクト応援団とは
くまもとスマートライフプロジェクトの趣旨に賛同し、職員やその家族、県民に向けて、健康づくりの意識啓発や健康づくり活動の実践に協力していただける企業・団体登録団体：1,313団体（R2年1月末）

②健康経営セミナーの実施

平成31年4月16日、アクサ生命と共催による開催 参加者 約100名

③プロジェクト応援団優良事例の横展開

- ・スマートライフプロジェクト応援団の優良事例の2団体（（株）えがお、平田機工健康保険組合）の取組をテレビにて紹介（令和元年12月19日）。
- ・健康経営セミナー参加者やプロジェクト応援団等へプロジェクト応援団の優良事例集を配布（約400冊配布）

④顕彰制度による健康経営の普及

- ・熊本県健康づくり県民会議表彰「健康経営、健診・がん検診部門」の実施。表彰団体数：4団体
- ・県と協会けんぽ熊本支部：協会けんぽヘルスター認定（3つ星）の連名で健康経営優良事業所認定。 令和元年度認定 27事業所